

日本看護歴史学会
会報

日本看護歴史学会
第4号
1988年10月15日

— 歴史学会発展の礎 —
一〇〇年記念の大会開催される

山本捷子

去る八月二〇、二十一日、日本看護歴史学会第二回大会が、日本赤十字看護大学で開催されました。

今年土曜日の午後からの開始という事もありまして、あらかじめプログラムを選んで参加された方も多く見受けられたようです。参加者は九十四名で、昨年より十数名も多く、去年の方々に加えて東京を中心とした新しいメンバーの参加が目立ちました。大会当日の入会者を含め、会員は二百名を越えました。本会へ寄せられる関心の深さと、看護歴史研究に情熱を傾ける向学心溢れる方々が益々増えることの喜びを強く感じ、心

から嬉しく思います。皆様の厚い御協力の賜物と深く感謝申し上げます。

プログラムは、初日は「近代看護婦発祥一〇〇年記念」の特別講演、研究報告と総会が行われました。特別講演は群馬県立女子大学の村田鈴子氏の「女子教育史の視点から看護教育を考える」でした。明治初期の学制から現代に至るまでの、女子教育の変遷の中で「看護」がどのように教育され、どんな位置づけがされてきたかをつぶさにお話し下さいました。小学校や女学校で「家政」の一部としての「生理衛生」が教授された経過

はありましたが、看護婦の養成については病院付属の教育が主流であったことから、村田先生の講演の所謂「教育史」の中に看護教育が登場するのは戦後の大学や高校衛生看護科としてであり、看護教育の置かれた立場を外側から見るこの大切さを私達に教えられたように思いました。

研究報告は二題。飯島美代子氏の「赤十字博物館と保健衛生活動」では赤十字博物館の存在と、それが保健衛生の普及に果たした役割について述べられました。吉川龍子氏は「高山盈の生涯」を研究した過程で、実際に高山盈とそのゆかりの深い人々の足跡をたどるといふ歴史研究・資料収集の仕方についての体験を話され、二題とも大きな示唆を得ることができました。

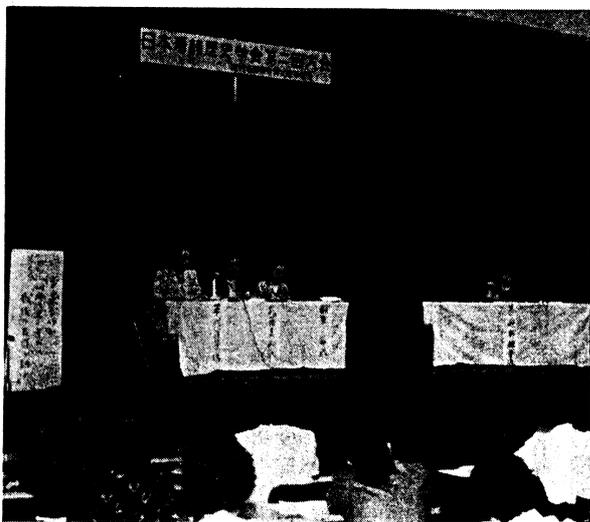
講演、研究報告ともに機関誌二号に掲載される予定です。

二日目は、午前中各分科会にわかれ、話題提供者を中心に熱心なグループ活動が行われました。この方式は自分のテーマをもって、どの分科会に所属するかを選択するために、多少の戸惑いはあったようですが、

去年の顔合わせから発展して、活発な討議がされました。大会の時間を契機に不断の研究活動が触発されますよう期待します。

午後は分科会の報告とシンポジウム「同時代史としての戦後の看護を語る」が行われました。

シンポジウムでは、都築公氏が「制度」の面から、特に昭和二十三年の保健婦助産婦看護婦法が身分法として確立した経過を、国会議事録の紹介をまじえながら話されました。「教育」の面からは、武藤美知氏が国立病院における看護教育を軸に、医療需要に即した教育の質の向上をはかり、学生の人権を獲得してきた看護教育の実



態の経緯が語られました。草刈淳子氏は行政・病院組織を含めた「管理」の変遷を健康政策や社会福祉・社会保障制度との関連から述べられました。

戦後四〇年の看護史を語るには内容が豊富過ぎて、九〇分という時間の短さを残念に思いながら、今後一つひとつの問題を掘り下げていくことに期待をかけて、閉会しました。

さて、今年「近代看護婦発祥一〇〇年」に当り、本会は設立一年目でしたが、記念のテレホンカード発売と「看護婦一〇〇年のあゆみ写真展」を企画しました。京都、東京、名古屋で開いた写真展はいずれも多くの方々の来場があり、関心の高さが感じられました。また、写真展を機にマスコミの方が「看護に関する問題」を取上げようという反響もあり、看護婦の歴史を知っていたらという所期の目的が達成されまして嬉しく思います。さらに近代看護婦の歴史一〇〇年と時を同じくした節目に本会が発足したことは意義深いことだという声も聞かれております。本会に寄せられる期待の大きさに責任の重さを痛感しながら、二年目の足元固めのために幹事一同努力したいと思っております。

第二回大会に参加して

金井 悦子

昨年誕生した新しい学会に興味をおぼえ会員ではないが参加する機会を得た。

村田鈴子先生の特別講演は広い女子教育史の視点から述べられ、私達は教育カリキュラムの発達の歴史を分析し、看護の本質をふまえて未来を含む過去を判断する必要があることを考えさせられた。過去を忘れた人間は、未来を持つことはできない”という先人のことば通りである!!

分科会は、25のテーマから自由に選んで参加できるという形式に、他にない新鮮さを感じた。村田先生の講演に触発され、「看護教育模範学院」に学んだ私は、自己をふり返る意味で、看護教育史に加わったが、話題提供者のみごとな導入で11名の参加者が自由に発言でき、時間の過ぎるのを忘れてしまふほど楽しかった。

この分科会が、お互いを啓発し継続的に学習や研究を深めて、発展されることを心から応援したいと思う。

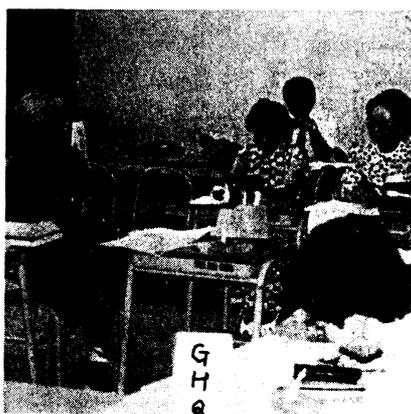
(非会員・日赤看護大学)

江崎フサ子

「当然、参加」、自分の意志で今年は臨んだ。わずか一年、見事な成長・発達をする乳児のように、メンバーの熱気は、高く、濃く育っていた。

時宜を得た講演・シンポジウム、会員による研究発表、身を乗り出して話し合った分科会。

面白かった、刺激された、感心した、学んだ、あせっちゃった。昨年、一回大会、誘われて京都にくっついて行った。亀山氏の講演にみた史実の発掘のあり方、資料に、カルチャーショック、ノックアウト。そして考えた、365日、自分が出来るかと。第二回大会はささやいた。「行動に移しなさい」。



第二回総会議事内容

詳細は別項に掲載しますが、第二回総会は氏家幸子幹事の司会のもとに以下の報告・審議がされました。

一、報告事項

1 事務局の動き(第一回総会以後本日まで) 山崎幹事

①現在会員数198名('87年度167名、'88年度 8月20日まで31名入会)

②幹事会は3回開催した。(11月7日、1月9日京都、5月29日東京にて)

③会報を3回発行した。(第1号12月15日、第2号3月15日、第3号6月30日)

④会誌第1号を3月15日に発行。

⑤会員名簿を3月15日に発行。

2 分科会報告 高橋幹事

二、承認事項

1 近代看護婦発祥百年記念行事について 亀山幹事

2 '87年度会計決算 福本幹事

3 会計監査報告 (会員) 江崎フサ子・岡崎寿美子

三、審議事項

1 '88年度活動方針・計画 亀山幹事

2 '88年度会計予算案 福本幹事

予算審議では分科会費四万円の具体的使途について質問があり、分科会活動推進のための連絡通信費や地方分科会の経費に当ると回答がされた。

各項目について出席会員全員の賛成により承認されました。

「近代看護婦発祥百年記念事業」について

昨年(1987)の総会の席上、一九八八年から百年目にあたることから「近代的看護婦発祥百年記念事業」として、特殊記念切手の発行と、何らかの国民的行事となるような事業を実施することが決議され、その後、テレホン・カード(テレカ)の発売と写真展開催、および第二回大会を記念大会とすることなどが幹事会で決定され、会報を通して会員に報告された。

■ オリジナル・テレカ

当初、特殊切手発行のため、近畿郵政局より再度の申請手続きを行ったほか、関係省庁への理解や関係者等への協力を要請したが、生憎、一九八八年度には国際的行事や国内博覧会等が集中し、六六件の申請があったため、残念ながら特殊切手の発行は断念せざるを得なくなった。

これにかわり「ゆうべーン」(切手帳)やエコーハガキの発売を検討したが、経費面で不可能と判断された。その結果、一月九日の幹事会でオリジナル・テレカ千枚の

作製が提案され、了解された。

これを受けて三月に藤美津子氏にテレカのデザインを依頼する一方、NTT浜田局に五月中に完成するよう発注を行なった。五月二十九日の幹事会で出来上ったテレカの販売を開始することが確認され、通信販売を含めて発売が開始された。

発売開始後は様々な施設・団体・催し会場等でテレカの注文があり、八月大会中に当初の予定を上回る三千枚が完売となった。このため八月二十一日の幹事会で今年中に発売するため四千枚目を発注することが了承され、作製された。なお、会計責任者は藤村龍子幹事。

■ 「看護婦百年のあゆみ写真展」

昨年十一月七日の幹事会の席上で洲協幹事より、記念事業として写真展の開催が提案され、大筋で了承されたが、会員への了解を得るためにも細部の検討を要することとして、継続審議されることになった。一月九日の幹事会では「近代看護婦発祥百年記念写真展」の仮出展目録が亀山幹事より提出

され、大綱で了承された。この時点では京都・東京での開催と、そのための予算四〇万円の調達方法および関係各団体への協力要請の是非等が検討された。また、本会の事業としない場合には「看護史同好会」としてでも開催する可能性もあることなど幅をもたせた提案があった。

結果的には必要経費のうち十万円は本会より支出し、他は寄附に頼ること、会員に記念事業の一環として了解を得るために会報を通じて報告することとなった。写真展の準備等には洲協・亀山両幹事が当ることになった。

写真パネル作製は三月より開始され、京都マルミ堂に製作依頼を行なう一方、展覧会場として京都市地下鉄御池駅ギャラリー(六月二〇日～七月十日)、東京都社会福祉総合センター(八月十九日～八月二十七日)、名古屋三越デパート(九月十五日～九月二十一日)に、それぞれ予約された。

五月二十九日の幹事会では写真展の通称を「看護婦百年のあゆみ写真展」とすることに決定した。また、当初の予算は京都開催中心に立てられたもので、新たに百万円の予算が計上された。一方、開催にあたり、社団法人京都府看

護協会(共催)、社団法人愛知県看護協会、社団法人日本看護協会愛知県支部(協賛)の協力、京都府、京都市、東京都、愛知県、名古屋市の各自治体および、社団法人日本看護協会、社団法人東京都看護協会の後援を得ることになった。京都での開催の直前になり、京都の会期が六月二十二日～七月二十八日に延長されるとの申し出がギャラリー側からあり、実施された。

写真展開催については大手三紙および地方新聞各社やテレビ局の報道が相次ぎ、京都、東京、名古屋での反響は大きく、看護・医療関係者のみならず、一般人も多くの動員することができた。(文責亀山)なお、今後の写真展開催予定は次のとおり。

9月26日～10月29日(日・祝休)
浜田郵便局・島根県浜田市殿町
後援 社団法人島根県看護協会
11月2日～11月11日(日・祝休)
福井市々民ホール 福井市大手
共催 福井市

(福井県看護協会後援申請中)
12月1日～12月25日
滋賀県立婦人センター・近江八幡市
(〇七四八―三七―三七五―)
(滋賀県・滋賀県立婦人センター、社団法人滋賀県看護協会、協賛または後援予定)

写真展開催のための
寄附状況について

亀山 美知子

会報第三号で寄附者名簿の公開を行いました。その後、多くの御協力頂きました。お蔭で、好評のうちに写真展が進行しております。御報告し、お礼を申し上げます。会期中、写真展会計を担当する洲脇幹事が病氣のため、途中より亀山が引き継ぎましたことも、あわせ御報告します。なお、社団法人京都府看護協会より開催協力金として二〇万円を受領いたしました。

寄附者名(敬称略・順不同)

● 団体

- 三万円 〓 医学書院
- 二七、五五八円 〓 北里大学病院看護部有志
- 二万円 〓 看護の科学社
- 一万二千元 〓 東大病院中央五階看護婦一同
- 一万円 〓 東大病院第三内科病棟看護婦一同
- 九、四四二円 〓 北里大学看護学部教員有志
- 本会会員
- 三万円 〓 飯島美代子

- 一万円 〓 五十嵐節、渡部尚子、高嶋妙子、中込仁、他に匿名希望者一名
- 五千円 〓 松本信一、山本もと子、吉田弘子、門脇ツヤ子、城井美子、小山千加代、藤田絹子、小野清美
- 三千円 〓 小野寺久子、松野睦子、岡崎寿美子
- 二千円 〓 金谷幸子、鈴木一子、岡崎コナ子
- 千円 〓 佐藤喜根子

● 一般(個人)

- 五万円 〓 大塚幸三
- 三万円 〓 原田郁代、森まさ子
- 一万円 〓 井川チエ子、若菜キミ、木下安子、坂内正道、名原寿子、佐々木由紀子
- 七千円 〓 金井悦子
- 五千円 〓 宮崎和子
- 三千円 〓 阿部八重子、佐藤鈴子、柳沢愛子、佐藤繁子、中山照美、伊藤きよみ、林滋子
- 川崎多恵子
- 二千円 〓 鈴木真代、浅田、加藤京子、中村シズ子、国分アイ、大嶽康子
- 千円 〓 関戸好子、大橋真理子、蛭谷照子、服部宮子、岡登志子、服部万里子、江水俊子、淡路千枝子、小菅ヒサ、南野千恵子

分科会報告

高橋みや子

第二回大会における分科会は、24分科会のうち、7つの分科会が討議を行いました。

1 「文学・映像に見る看護」参加者11名。五十嵐節氏より、藤原長子の「讃岐典待日記」の記述にみる堀川天皇の看護と、日記より看護を抽出する過程及び文献について報告があった。

2 「GHQ」参加者12名。ライダー島崎玲子氏より、第二次世界大戦前の日本国憲法・教育法・民法の概要と、戦後の占領政策の一環として行なわれた看護改革について、アメリカ国立図書館の資料に基づいた報告があった。

3 「臨床看護史」参加者13名。大西雅子氏より、「記念誌からみた大学病院における看護衣の変遷―近代史を中心に―」の報告があり、その後、参加者のテーマである県看護史、病院看護史、シーツ・ベットの歴史等について討議した。

4 「看護教育史」参加者12名。藤村龍子氏より、今後の研究課題と視座について、各種学校の歴史、明治・大正・昭和の看護教育の実情・GHQの「模範学院」のカリキュラムとその影響等、具体例を

上げて報告があった。

5 「宗教と看護」参加者3名。吉田弘子氏より、キリスト教と看護については研究されているが、仏教と看護については、されていないとの指摘があり、今後の研究課題と視座について討議された。

6 「公衆衛生看護」参加者2名。佐々木美幸氏より「鳥取県における農村保健婦養成のはじまり」の報告があり、農村保健婦養成の位置づけ等について討議された。

7 「助産・助産婦の歴史」参加者5名。小野清美氏より、「女の性と便所との係わりの視点から探る」の報告があった。

分科会における話題提供は、提供者・参加者共々に相互に刺激し合い学び合うよい機会であり、また、参加者同志のネットワークは、研究を推進させる起動力になると考えております。

たった一人であっても話題提供する事により、必ず同行の友が現われると確信します。学会に参加する事を通して、自分が関心を抱いているテーマを徐々に具体化し形あるものにして行きましょう。

来年度は、話題提供者を早く募り、学会案内時には、開く予定の分科会と話題提供者、参加者の準備する資料等をお知らせし、実りある分科会にして行きたいと思っております。皆様の協力をお願いします。

新入会員紹介

(88年8月31日まで)

- 渡辺 尚子 〒338 浦和市上大久保五一九 県立衛生短大
- 渡部喜美子 〒194 町田市玉川学園一六一七
- 城井 美子 〒228 相模原市北里二一一一 北里大学看護学部
- 青山 和子 〒830 久留米市津福本町四三 聖マリア学院短大
- 平山 厚子 〒335 蕨市塚越一六一一一
- 伊藤 晴美 〒604 京都市中京区西ノ京南円町六
- 大西 雅子 〒920 金沢市里見町五八
- 伊藤 幸子 〒228 相模原市北里二一一一 北里大学看護学部
- 川島 和子 〒338 与野市上落合九七一五―五―五〇三
- 末永ちぢ代 〒650 神戸市中央区港島中町四一六 神戸市立看護短大
- 筒井 トキ 〒314 茨城県鹿島郡神栖町賀三〇四 鹿島白十字高等看護学院
- 菅原 スミ 〒160 新宿区信濃町三五 慶応義塾看護短大
- 花岡真佐子 〒160 新宿区信濃町三五 慶応義塾看護短大
- 小玉香津子 〒横浜市旭区中尾町五〇一―一 神奈川県立衛生短大
- 植村小夜子 〒604 京都市中京区西堀川通り御池下ル 京都市中京保健所
- 中条 桂子 〒604 京都市中京区西堀川通り御池下ル 京都市中京保健所
- 片岡千雅子 〒981 仙台市星陵町二一一 東北大学医療技術短大部
- 宮原 紀子 〒150 渋谷区恵比寿二―三四―一〇 東京都立広尾看護専門学校
- 相本 和子 〒252 藤沢市高倉九六―一―三 藤沢市立看護専門学校
- 野島 幸子 〒840 01 佐賀市鍋島町鍋島三本杉 佐賀医科大病院
- 船木ノブ子 〒113 文京区本郷七―一三一― 東大病院
- 岡田 麗江 〒650 神戸市中央区港島中町四一六 神戸市立看護短大
- 水川 怜子 〒151 渋谷区代々木二一一 JR東日本中央健康管理所
- 城生 弘美 〒150 渋谷区恵比寿南二二六―二二 慶応義塾看護短大
- 岸本多恵子 〒332 大宮市宮原町二―二五―一六 大宮医師会大宮病院

千葉・東京地区 研究会が発足

第一回研究会が去る九月十日、千葉県立衛生短大で開かれ、今後の活動計画が決定しました。参加者は7名でしたが、研究意欲にあふれたメンバーの集りで、一緒に学んでいく方々の参加を歓迎しています。これからは二か月に一回定期的に研究会を開催、同一テーマではなく、プレゼンターによる話題提供や、部外者を講師に招いて学習を続けていくことになりました。参加希望の方は、千葉県立衛生短大の小野清美氏へ御連絡ください。(高橋)

研究論文の募集について

看護歴史の研究の成果を機関誌「日本看護歴史学会誌」に掲載希望の方は、奮って投稿してください。審査の上、掲載します。随時受け付けておりますが第二号の応募締切りは十一月末日です。投稿先は〒160 新宿区信濃町35 慶応義塾看護短大藤村龍子宛です。

河村 郁 悲しみの阿修羅

べつしよちえこ著 定価三、〇〇〇円
聖路加国際病院附属高等看護学校(いまの看護大学)一期生・日本看護協会名誉会員である大先達の看護実践・看護教育・看護行政そして看護協会の活動に果たされた足跡が、可能な限り活写された感動の伝記。

看護教育の実践的展開

ある看護婦教師のあゆみ
杉森ひと里著 A5 定価二、三〇〇円
看護の科学社
東京都豊島区南大塚一丁目十三番四号
☎011-703-9433 〇二四四

日本看護歴史学会会報第四号

編集・発行責任者
〒150 東京都渋谷区広尾四一―三
日赤看護大学内
山本 捷子
頒価 三百円
日本看護歴史学会事務局
〒675-01 加古川市平岡町新在家三三
兵庫女子短大 山崎雅代